

## 関係機関 医療機関との連携

中学2年生のVさんは、医者から高機能自閉症と診断されている。成績は優秀であるが、自分の話を一方的に話し、人の話は聞けないなど、他の生徒とコミュニケーションをとることが苦手である。

ある日、同じクラスのWさんが、Vさんの前でその行動をまねてからかった。Vさんはそれを見て、突然暴れ始めた。そのまま取っ組み合いのけんかになり、二人はけがをしてしまった。

担任は、最初にWさんを指導し、からかったことに対する謝罪をさせた。その後Vさんに暴力を振るったことを指導したが、Vさんは、Wさんがやったからだの一点張りでゆずる気配はなかった。Wさんも周りの生徒も、Vさんの様子に反感を強めていった。

担任だけでなく、Vさんにかかわる教師は大なり小なりVさんの具体的な対応に困っていた。そこで校長に相談したところ、講師に医師を呼び、事例検討会を開くことを助言された。



ADHD、高機能自閉症、摂食障害など子供の身体的障害や、精神的障害がその根底にあることが明白な場合には、専門の医療機関と連携をとる必要があります。また、そのような障害が懸念される場合には、医療機関への受診を勧めることも、早期発見、早期治療にとって大切です。

### すでに医療機関に通っている子供についての連携

医療機関に通っている子供には、個別の指導計画を立てて全校体制で支えることが大切です。そのためには、主治医と連絡をとり、指導上の留意点について助言を受け、それに基づく細心の配慮を払う必要があります。主治医に連絡をとる際には、必ず保護者の許可をとりましょう。その上で学校、家庭、医療機関で連携をとり、個別指導計画に基づいた指導を進めていきます。

### 保護者に医療機関を勧める上での留意点

医療機関に行くことに難色を示す保護者や子供は多いです。このような場合、教師が強引に勧めることは、決してよい結果を生みません。今まで十分に保護者に連絡をして子供の様子を伝えてきたか、医療機関に対する誤解はないか、学校から見放されるのではないかという不安はないかなどを分析した上で、保護者の気持ちを十分に受け止めることが大切です。その上で共に方針を考えあい、保護者や子供が安心して医療機関にかかわれるような教師のきめ細かな援助が必要です。

どうしても医療機関に難色を示す場合は、スクールカウンセラーや教育相談室と最初に連携をとり、カウンセリングを受ける中から医療機関につないでいく方法もあります。